

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病虫害防除管理です～♪

両沼豆づくり情報 第2号 (通算第6号)

(令和3年7月8日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

〃 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター



1 大豆の生育概況

管内の大豆の播種作業は6月初めから6月中旬に行われ、天候に恵まれ終了しました。

一部播き損じのほ場もありましたが、播種期間中の気温は高く、降雨は5月下旬より周期的にあったため、出芽は良好でした。

現在、播種の早いところで、本葉3葉期前後となっています。イネ科やタデ科の雑草が目立つほ場もありますので、多発しているほ場では、中耕培土または除草剤の散布を早めに行いましょう。

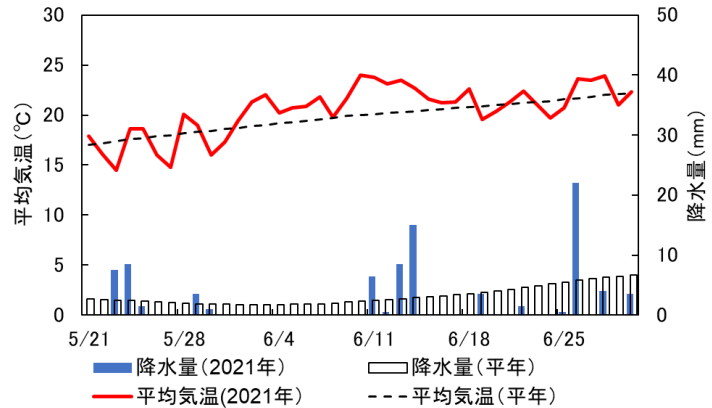


図1 播種期間の気温と降水量の推移

2 当面の技術対策

(1) 中耕・培土

中耕は、除草と作土の膨軟化による生育の促進を目的に行い、培土は不定根の発生促進、ほ場の排水、倒伏防止を目的とします。中耕・培土の効果は、雨が多くて土壌が過湿気味の場合や土壌が重粘で水はけが悪いような条件の場合に高くなります。また、中耕・培土は2回を標準に行います。

① 第1回目中耕・培土

1回目中耕は土壌処理除草剤の残効が切れる直前、発芽後20日頃の大豆3葉期を目安に子葉から初生葉が隠れる程度に浅く培土します。

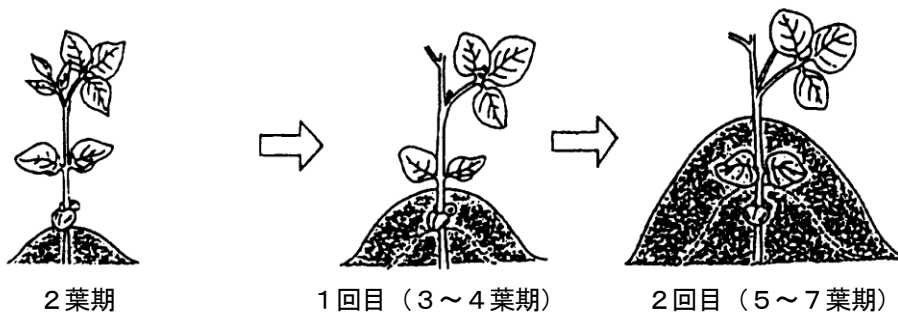


図2 培土の時期と高さ

② 第2回目中耕・培土

2回目中耕は5～6葉期に行い、第1本葉の節が隠れる程度まで培土します。培土は、不定根が発生してくる時期にしてこそ効果が大きく、あまり遅い時期の培土はむしろ断根によるマイナス影響の恐れもあります。このため、遅くとも開花の10日前までには終わらせる必要があります。

コンバイン収穫の場合は、汚粒発生防止のため、培土高ができるだけ一定となるよう作業を行いま

す。また、耕耘同時畝立て播種、小畦立播種栽培でも、慣行同様に中耕・培土は行います。

(2) 追肥

大豆は総窒素量の70～80%を開花期以降に吸収しますが、根粒の活動は開花期以降低下し、土壌からの窒素供給が充分でないと落莢が増加し、収量が低下します。

豆プロー発等の大豆専用一発肥料を基肥に施肥した以外のほ場では、最終培土前（標播で7月上～中旬）では肥効調節型肥料の70日タイプ（晩播では40日タイプ）を窒素6kg/10aを施用します。施用後はただちに中耕培土を行い、肥料の混和した土を株元に寄せることで施肥効率が向上します。

また、気象条件等で培土が行えなかった場合、開花期から開花期後10日頃までに尿素あるいは硫安を用いた追肥を行います。

表1 追肥

追肥 (kg/10a)				
窒素	体系1		体系2	
	肥料名	施用時期	肥料名	施用時期
6	LP70	5～7葉期	硫安・ 尿素	開花期
6	LP40			

(3) 雑草防除

大豆を播種してから約30日間雑草の発生を抑えるようにすれば、雑草による大豆生育への影響ほとんど除くことができますが、1回目の中耕・培土を行っても畦間・株間の残草が見られる場合には、茎葉処理剤を散布します。

大豆バサグラン液剤は、タデ科、キク科、アブラナ科には効果が高い反面、アカネ科やアカザ科、マメ科には効果が劣ります。**アタックショット乳剤**は難防除雑草の帰化アサガオやアレチウリ、イヌホオズキ類などには効果が高いもののタデ科、キク科、ツユクサ科、マメ科などに効果が劣るなどの特徴があるため、散布の際は草種を確認して散布を行って下さい。

表2 主な茎葉処理剤

商品名	適用時期	使用量(散布液量)	適用雑草	使用方法	使用回数
ナブ乳剤	雑草生育期（イネ科雑草3～5葉期）収穫30日前まで	150～200ml/10a (100～150L/10a)	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	雑草茎葉散布 又は 全面散布	1
ポルトフロアブル	雑草生育期（イネ科雑草3～10葉期）収穫30日前まで	200～300ml/10a (通常散布50～100L/10a)			
大豆バサグラン液剤	だいの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）収穫45日前まで	100～150ml/10a (100L/10a)	一年生雑草（イネ科を除く）		
アタックショット乳剤	本葉2葉期～開花前（雑草生育期）収穫45日前まで	30～50ml/10a (100L/10a)	一年生広葉雑草		

(4) 病虫害防除

開花期までの病虫害対策では、アブラムシ類やウコンノメイガ、カメムシ類の発生に注意します。アブラムシ類はマラソン乳剤などの有機リン系薬剤、ウコンノメイガはプレバソンフロアブル5などのジアミド系薬剤、カメムシ類はスタークル（アルパリン）顆粒水溶性剤などのネオニコチノイド系薬剤の効果が高いとされます。

ノーミス、ノー事故、農作業！ 水分・塩分補給で熱中症を防止しましょう！

☆農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しましょう。

☆自然災害対応および所得安定のために、農業共済・収入保険に加入しましょう。